



TOP GLOBAL
UNIVERSITY
JAPAN



Japan.
Committed
to the SDGs



岡山大学
OKAYAMA UNIVERSITY

資料 1

2025年11月26日(水)
国立大学法人岡山大学
11月定例記者会見(学長発表)

岡山大学次世代研究院 次世代研究群の認定と取組について ～「難治・希少がんに対する再生・細胞医療・遺伝子治療拠点」の指定～

国立大学法人岡山大学 学長・高等先鋭研究院 院長

那須 保友

副理事(研究・産学共創総括担当)・副学長(学事担当)・上級URA・次世代研究院 院長

佐藤 法仁

学術研究院 医歯薬学域(医) 脳神経外科学 教授

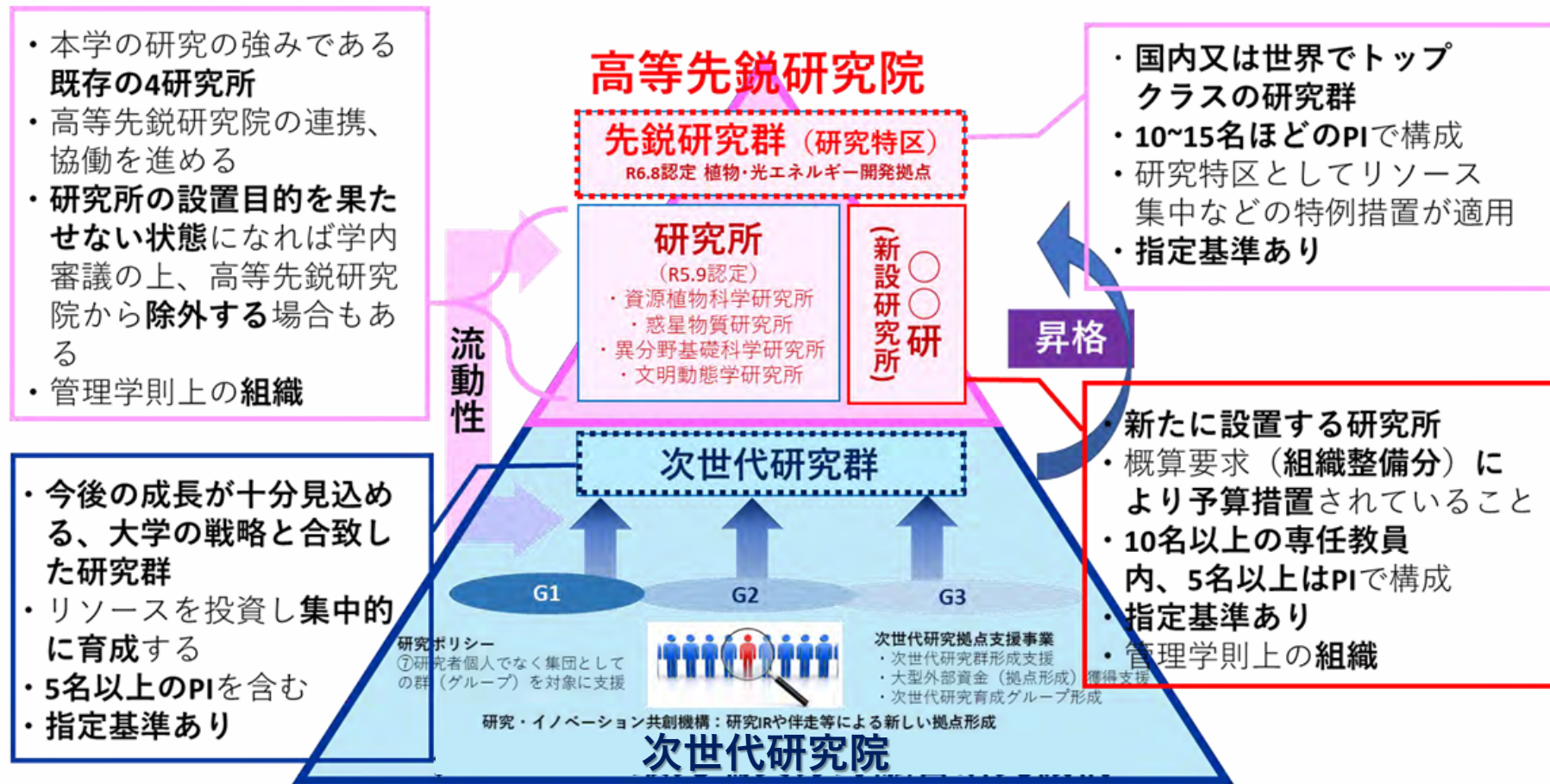
田中 將太

学術研究院 医歯薬学域(医) 脳神経外科学 研究准教授

大谷 理浩

学術研究院 教育研究マネジメント領域(研究・イノベーション共創機構) 准教授

嵯峨山 和美



単なる組織としての「箱」ではなく、卓越性からイノベーション創出、実績に応じた評価と流動性を兼ね備えた強化・育成の「システム」を構築

○補足

次世代研究院は、2024年度まで「グローバル最先端異分野融合研究機構（G研究機構）」という名称でした。2025年度から改称しました。

【参考】岡山大学 J-PEAKSMONTHLYDIGEST Vol.9（2024.12）

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/J-PEAKS/file/vol9.pdf



岡山大学では、強みの研究群(グループ)を構造的に育成するため、「高等先鋭研究院システム」を、文部科学省の「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」(実施主体:日本学術振興会)を機に構築しました。

全体を第1レイヤー「高等先鋭研究院」と第2レイヤー「次世代研究院」の2階層で構成。第1レイヤーの高等先鋭研究院は、本学を代表する強みの研究領域と位置付け、本学4研究所と、極めて高い研究アクティビティを発揮する国内または世界でトップクラスの研究群である『先鋭研究群』で構成します。

先鋭研究群は、学内の研究特区として規程の弾力運用や管理的業務の負担軽減など、研究者の研究専念環境の構築を強力に推進します。

第1レイヤーと第2レイヤーは、研究IRによる入替制を採用し、研究群の切磋琢磨と新陳代謝(流動性)を促すことを通じ、卓越した研究成果をコンスタントに創出することを目指す**わが国初のシステム**です。

【参考】文部科学省「地域中核・特色ある研究大学強化促進事業(J-PEAKS)」に採択～地域と地球の未来を共創し、世界の革新の中核となる研究大学：岡山大学の実現を加速とともに世界に誇れる我が国の研究大学の山脈を築く～

https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12723.html

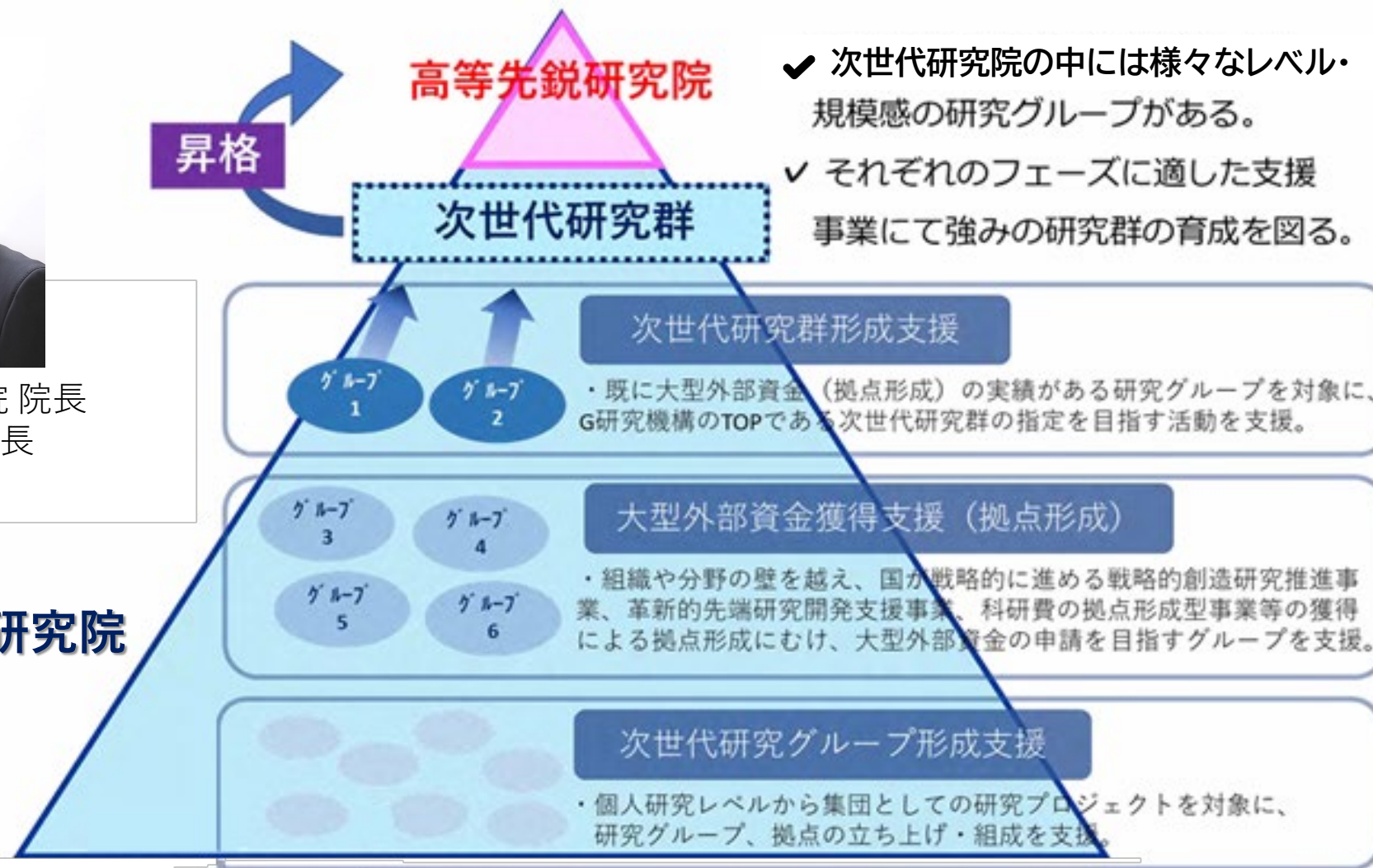
<https://j-peaks.orsd.okayama-u.ac.jp/>





高等先鋭研究院 院長
那須保友 学長

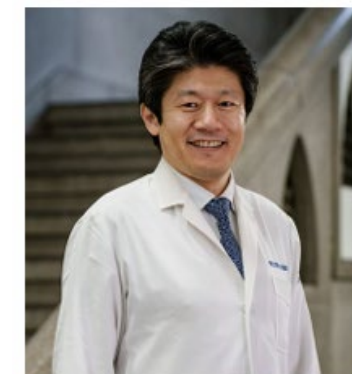
次世代研究院



- ✓ 次世代研究院の中には様々なレベル・規模感の研究グループがある。
- ✓ それぞれのフェーズに適した支援事業にて強みの研究群の育成を図る。



次世代研究院 院長
佐藤法仁 副理事・
副学長・上級URA



代表者 田中將太教授

次世代研究院 次世代研究群「難治・希少がんに対する再生・細胞医療・遺伝子治療拠点」を本学として初指定

高等先鋭研究院システムの土台となる第2レイヤー「次世代研究院」では、新たな研究群(グループ)の育成を段階的に進めます。

次世代研究院には、様々なレベル・規模感の研究グループがあります。

「次世代研究グループ形成支援事業」:個々の研究者から研究グループの組成を促す

「大型外部資金獲得支援事業(拠点形成)」:ある程度の活動実績や規模感を有する研究グループを対象に大型外部資金獲得申請に向けた活動を支援する

「次世代研究群形成支援事業」:既に大型外部資金(拠点形成)の獲得実績がある研究グループを対象に次世代研究院のTOPに位置付ける『次世代研究群』の指定を目指す活動を支援する

など、研究グループのフェーズに応じた支援メニューを活用し、段階的な育成を実施。

「次世代研究群」は、今後の成長が十分に見込めること、さらに岡山大学の戦略と合致した研究群と定義し、指定の基準を明確に定めています。次世代研究群は、他の研究群との融合・協働等を通じ、第1レイヤーの「高等先鋭研究院」に昇格することを目指します。



令和7年度
岡山大学次世代研究院 次世代研究群



難治・希少がんに対する再生・細胞医療・遺伝子治療拠点の形成

岡山大学 学術研究院 医歯薬学域(医)

脳神経外科学
消化器外科学
整形外科
呼吸器アレルギー内科・腫瘍微小環境学
ゲノム医療総合推進センター
プロジェクトマネージャー

田中 將太、大谷 理浩
藤原 俊義、黒田 新士、金谷 信彦
尾崎 敏文、藤原 智洋
富樫 庸介
遠西 大輔
嵯峨山 和美

背景

- 難治がん、希少がん(人口10万人あたり6例未満)は、治療困難な疾患が多く、標準治療の確立や新規治療の開発が重要である
- 岡山大学病院は、「臨床研究中核病院」、「がんゲノム医療中核拠点病院」に選定されており、難治・希少がんの治療に精力的に取り組んできた
- 岡山大学は、「橋渡し研究支援機関」に選定されており、産学連携で様々ながんに対する細胞医療・遺伝子治療の開発研究を行ってきた

【参考】岡山大学病院

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/>



【参考】岡山大学病院 がんゲノム医療中核病院

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index12.html>



【参考】岡山大学病院 臨床研究中核病院

<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/index13.html>



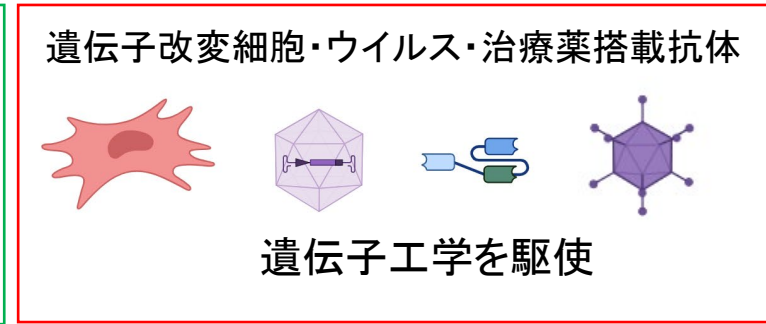
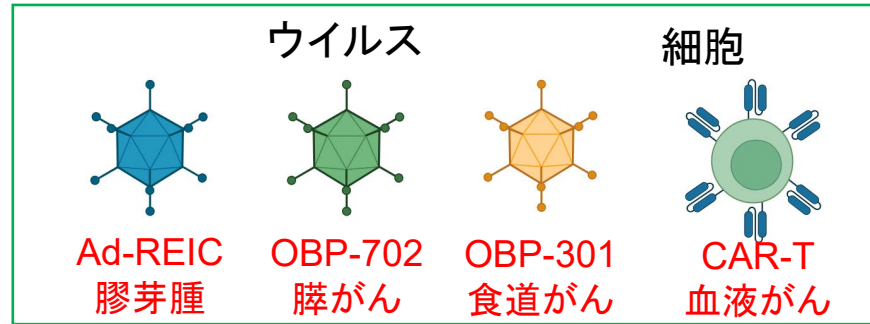
【参考】岡山大学病院 橋渡し研究支援機関

<https://seeds.hsc.okayama-u.ac.jp/>

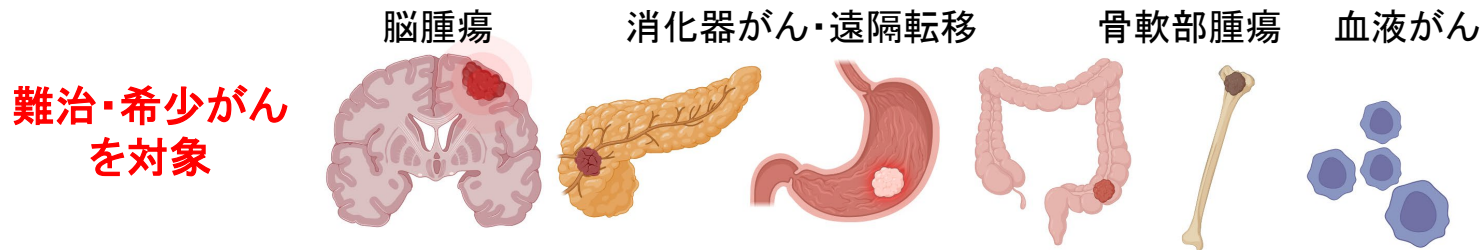


新規遺伝子細胞治療の臨床応用

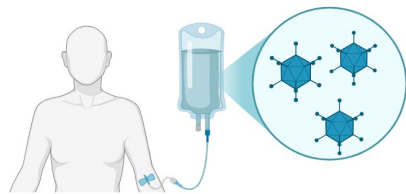
さらなる新規治療候補の開発



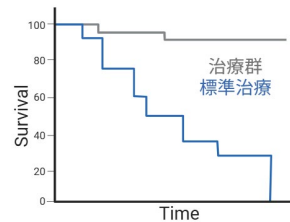
他癌腫へ適応



メカニズムに基づく
新規治療薬の開発

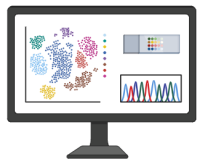
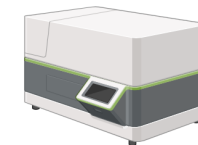


新規臨床試験の実施・協力
ハイレベルなトランスレーショナル
研究の実践

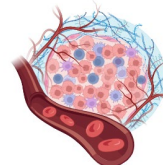


臨床試験検体の統合解析
がん微小環境を中心と
した治療メカニズムの解明

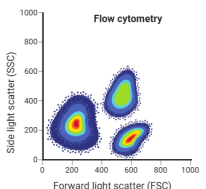
空間マルチオミクス解析など



岡山大学病院
希少がんセンター
新医療研究開発センター



岡山大学病院
ゲノム医療総合推進センター
腫瘍微小環境学



活動計画および目標

活動計画

臨床研究

- ・ 脳腫瘍、消化器がんに対する新規臨床試験の企画
- ・ 「統合解析コア」によるデータ解析に基づく治療層別化の検証

基礎研究

- ・ 現在の開発シーズの他がん腫への応用
- ・ データの再解析・統合解析による新規治療開発

目標

「難治・希少がんに対する再生・細胞医療・遺伝子治療拠点」として治療製剤の開発
若手研究者の育成による持続的な研究の発展

【参考】岡山大学 J-PEAKSMONTHLYDIGEST Vol.19 (2025.08)

https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/freetext/J-PEAKS/file/vol17.pdf

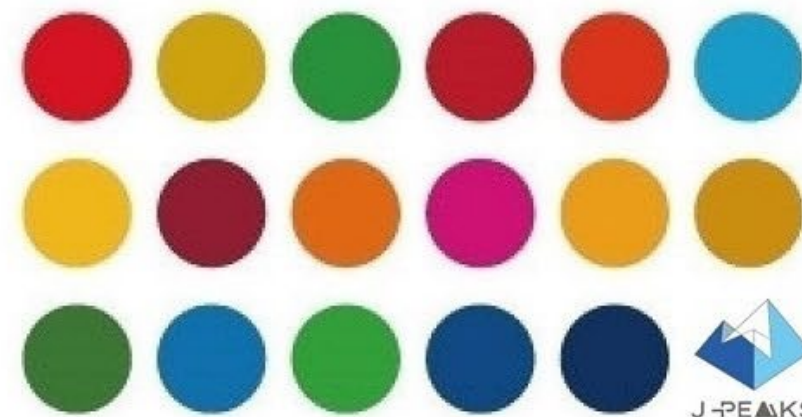




国立大学法人岡山大学
第15代学長(第5代法人の長)
那須 保友

地域中核・特色ある研究大学 岡山大学が拓く今と未来

OKAYAMA
UNIVERSITY
×
SDGs



私たちは大学が地域と地球の未来を共創し、世界を変革させ、
持続可能な社会を実現させる“力”があることを信じています

【本件問い合わせ先】

岡山大学 研究・イノベーション共創管理統括部

〒700-8530 岡山県岡山市北区津島中1-1-1 岡山大学津島キャンパス 本部棟

TEL: 086-251-7092

E-mail: innovation@adm.okayama-u.ac.jp

